

ねらいを定めて...



囲碁ボール

平成29年2月26日 村民体育館



第673号
 発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (3月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,354人
 女 3,439人
 総人口 6,793人
 世帯数 2,132戸

冬季レクリエーション大会

老若男女楽しめるニュースポーツ

冬季レクリエーション大会が、二月二十六日に村民体育館で開催された。種目は昨年引き続き囲碁ボールで、一般や小学生、分館などから十二チームが参加し、三つのリーグに分かれて対戦した。また、試合の空き時間には平たいラインの上を歩く「スラックライン」にも挑戦し、子どもから大人まで、真冬のレクリエーションを楽しんだ。

誰もがハマる 囲碁ボール

体育協会理事長 吉田 裕

二月二十六日に豊丘村民体育協会と豊丘村公民館の共同開催で冬季レクリエーション大会が行なわれました。小学生から高齢の方まで誰でも参加していた。ただ、今年も種目を囲碁ボールとスラックラインとし、各分館の役員の方にもご協力を頂いての開催となりました。

囲碁ボールは、マレットゴルフに似た木製のスティックで白と黒のボールを十個ずつ、基盤になった人工芝のマットに交互に打ち、五目並べをして得点を競う競技です。白黒二チームで対戦となりますが、今回は一チーム二名から四名の編成で行いました。

囲碁ボールは誰でもできる簡単な競技ですが、作戦次第でチームがひとつになつて盛り上がる、誰もがハマるゲームのようです。簡単とはいえ、ボールのコントロールがなかなか難しく、ゴルフ好きな大人でも



バランスを崩さないように...

ゴルフとは勝手が違い、小学生が四目を並べる中、三目も並べられずに苦戦する光景も見られました。

もう一つのスラックラインは、幅五センチ程の帯を床から四十七センチほどの高さになり、その上に片足で乗ったり歩いたりするスポーツです。バランスを取るのが難しく、単純なのに、これもハマるスポーツです。

大会結果

豊リーグ 優勝 第四分館
 丘リーグ 優勝 第二分館
 だんQくんリーグ 優勝 ★FF

に参加していただきました。来年も誰でも参加できるように囲碁ボールを引き続き行ないたいと思っております。友達、家族、是非チームをつくって参加してください。

NHKの大河ドラマ『おんな城主直虎』と松岡氏の演題で、史学会の歴史講演会が、二月十九日ゆめあてで行なわれた。

講師は、かつて南小に在籍され、現在高森町歴史民俗資料館館長であられる堀越出身の松上清志先生。

最近高森町は、ドラマの主人公直虎の許嫁亀之丞が、九歳から十二年間隠れて育った松源寺、松岡城主の所在が、電波に乗って広

史学会歴史講演会

歴史の浪漫には夢が膨らむ

豊丘史学会 会長 木下正道

く知れ渡り、二月から六月までに大型観光バスの見学予約が六百台入り、その中には遠く高知県からも入っているとのこと。

走行するタクシーに「亀之丞この地で育つ」のステッカーが貼られ、幟旗が各所に立ち大変活気づいている。

当時の世は、上杉、武田、北条、今川、浅井の武将が各地に群雄割拠し勢力争いの絶えない戦国時代だった。武将の領地争いの絶えないなか、弱小領主達は、領主の地位を守る為にいかに知恵をしばったか。領内にお

いての権謀術数が渦巻く人間の性の凄まじきなを生きた、主人公直虎の許嫁、井伊亀之丞は、遠江の名族井伊家の嫡子、父親が今川に謀反の心ありと、領主の地位を狙う家老小野和泉守の讒言により謀殺され、嫡子亀之丞の命まで危くなり天文十三年(一五四四)年市田郷松源寺へ今村藤七郎に背負わせて逃げてきた。

松源寺では、遠江の名族井伊氏の嫡子亀之丞とあつて、松岡氏と手厚く迎え入れた。井伊家の伝記にはその間の事情を「今村藤七郎

に亀之丞を負わせて信州伊奈郡市田郷松源寺へ落行申候。右松源寺と申す寺は南溪和尚師匠宗和尚伝法の寺ゆえ、南溪和尚より書状遣わせて、右の寺を以てして亀之丞並藤七郎信州に十二年隠れ居申候」とある。ドラマは、フィクションが入るから面白い。

信州伊那谷で多感な成長期を過ごした亀之丞、遠く離れた故郷を偲び、篠笛を吹いて母を懐かしむ日々、毎朝伊那山脈の主峰鬼面山から登る神秘的な陽光を拝し、深緑が眩しく輝く豊丘の大

精気を吸って、感性豊かな凛とした青年に成長した姿はたのしい。

時代劇の歴史浪漫は、視る者が個々に想像し夢想すればするほど夢が膨らみます。今後、伊那谷がドラマの中でどう描かれ展開していくか楽しみです。



講師の松上清志先生

▽文明の発達した要因のひとつに言葉と文字がある。中国より伝わった漢字はやがて日本独自の使いやすい漢字へと変化し、ひらがなとカタカナが考案され日本語の基本となっている。言葉は会話の段階で、ひらがなを聞くと同時に同時に頭の中で相応の漢字に変換され、内容の意味を無意識のうちに理解している。ひとつの言葉(単語)でも、様々な意味として認識できることで、俳句や川柳など言葉あそびが流行り、外国とは違った細かな言葉表現ができることで、感情により漢字と仮名をうまく使い分け能力が日本人には備わってきたと思う。▽言葉を文字にするのも我々の素晴らしいところで、漢字にはいくつものフォント(書体・字體)を持ち合わせている。仮名だけでもバリエーションは豊富で、文章の内容で優しさを強さをフォントで表現できる。強さはゴシック体であったり太さ(ウェイト)であり、優しさは明朝体や丸ゴシック系、筆字や手描き風などその種類は今後更にまた増えていくことだろう。印刷物の紙面に踊る表現豊かな文字により目を惹きつけてくれたり、文の内容を察知できるような、感情のこもった書体使いが大切だと思う。先人たちが試行錯誤の末作り出してくれた日本語に、カンパイ!

(宮下正弘)

段丘

▽文明の発達した要因のひとつに言葉と文字がある。中国より伝わった漢字はやがて日本独自の使いやすい漢字へと変化し、ひらがなとカタカナが考案され日本語の基本となっている。言葉は会話の段階で、ひらがなを聞くと同時に同時に頭の中で相応の漢字に変換され、内容の意味を無意識のうちに理解している。ひとつの言葉(単語)でも、様々な意味として認識できることで、俳句や川柳など言葉あそびが流行り、外国とは違った細かな言葉表現ができることで、感情により漢字と仮名をうまく使い分け能力が日本人には備わってきたと思う。▽言葉を文字にするのも我々の素晴らしいところで、漢字にはいくつものフォント(書体・字體)を持ち合わせている。仮名だけでもバリエーションは豊富で、文章の内容で優しさを強さをフォントで表現できる。強さはゴシック体であったり太さ(ウェイト)であり、優しさは明朝体や丸ゴシック系、筆字や手描き風などその種類は今後更にまた増えていくことだろう。印刷物の紙面に踊る表現豊かな文字により目を惹きつけてくれたり、文の内容を察知できるような、感情のこもった書体使いが大切だと思う。先人たちが試行錯誤の末作り出してくれた日本語に、カンパイ!

相手の気持ちを考えて

小中学生の「社会を明るくする運動」作文より



豊丘中学校二年 郷原 瑞季

優しい祖母です。

私は、小学校一・二年の頃よく祖母とかるたやトランプをして遊んでいました。その頃は、とても祖母の事が好きで、母や姉、兄がいない時は、毎日のように祖母の部屋に行って遊んでもらっていました。また、畑仕事も祖母が自分でビールをひいて、苗を植え、水をまいて、実が育つていると獲ってきてくれました。それを母と一緒に料理をして夕食もたまに作ってくれていました。

でも、学年が上がるにつれて忙しくなると祖母の部屋には行かなくなり、夕食の時しか祖母と顔を合わせなくなりました。すると、中学一年の頃から、物忘れがひどくなり、同じ話を何度もするようになりました。私が、祖母のとなりの部屋でテスト勉強をしていると、祖母の知り合いから電話がかかってきました。その会話を聞いてみると、祖母が、十分前に話していた話題をまた話していました。また、物忘れなどの進行を防ぐ薬を処方されていたので、「朝と夜に薬を飲む」と書

いた紙をテーブルの上に置いて、薬を飲むのを忘れないようにやっておきました。でも、やはり祖母は薬を飲むのを忘れてしまって、飲みませんでした。そんなことが続いていたので、私は、この頃から祖母がいやになり始めていました。なので、祖母に冷たい態度をとり続けていました。

逆に、優しく注意されたり、話しかけてもらえたり、とてもうれしく、注意も素直に聞けると思いました。なので、私はいつかきつくといいそうになるかもしれないけど、一回冷静になって、祖母の気持ちを考えながら、自分の行動に気をつけて、話しかけていきたいと思っています。



リニアの声

第9回

蛇川上流発生土置き場は負の遺産となる

伴野 原 章

百年に一度はこの地域で起きるとされている満水、36災の時に、本山を含めて豊丘の奥の方のほとんどの谷が、ぬけています。この地域をつくる花崗岩は、非常に深くまで風化が進み、もろくなっているため、36災の豪雨でいたるところが崩壊したからだと言われています。崩れやすいそんな土地に大量の発生土を置いたら、やがてそれも崩れてきて、ひどい災害になると思えます。

36災の時に蛇川橋付付近では、上流の谷の崩壊で流れしてきた大量の岩や土砂や流

木が堆積し、激流が堤防を越え大きく氾濫しそうになり本当に大変なことがありました。いつたん置かれれば、どこかで発生土置き場をずっと監視し管理していかねければなりません。大きな地震や豪雨があればとても心配です。仮に何か事が起こればその補償や対応をしなければなりません。そして、発生土置き場は年数の経過とともに危なくなっていくはずで

川下流住民も村民です。下流住民にとっては、上流に発生土を置けば災害の危険性がこれからずっと続くのです。村が進める道の駅の建設で、かなりの土が運ばれて来ていました。ダンプは、一般車両を四〜五台挟んで次々に走ってきて、決して交通の流れを乱すことなく粛然と仕事をこなしていました。このことを思えば、決して蛇川上流に発生土を置くことが唯一の答えではないと思います。



36災 豊丘村本山の造林地荒廃状況 「語り継ぐ災害の記録」昭和56年刊 昭和36年災害20周年記念行事実行委員会出版部会

「惜別の歌」を聴いて

南市場 日下部富次

先日漠然と音楽を聞いていたところ、島崎藤村の若菜集に載る「惜別の歌」を聞いている内になぜか涙が滲んできました。不思議に思っていたこの歌について調べてみると次のような解説がありました。要約すると、昭和十九年、中央大学の学生が学徒動員(徴用)され軍需工場に送られ、更に次々と召集令状が舞い込み戦場に駆り出されていきました。その時同じ工場に働いていた、現お茶の水女子大学の学生が、戦地に派遣される学生等にこの惜別の歌詞を送ったのでした。この歌詞に感動したギターの得意な学生が別離の思いを込めて演奏

したのだそうです。昭和十九年と言えば本土空襲が激しくなり、誰彼を問わずいつ死んでも不思議で無い時代です。その後教師になった彼女たちが生徒達に教えたのです。こうして口から口へと伝えられ昭和三十五年頃、ダークダックスなどによってヒットしたものだそうです。その思いが私の涙になったのだと思いました。そこで思い出したのが「アカシアの雨がやむ時」という歌でした。この歌は昭和三十五年に発売されたのだそうです。あまりにも暗い感じでした。落ち込んでしまうので嫌いだっただけです。しかし当時は安保反対デモや社会党の浅

シリーズ「元氣な高齢者」③1 技能が身を助けた自動車運転

筒井 幹雄さん 八十九歳 北村在住



昭和三年に現在の隣りで、途中から農業に転換した両親の元、三人きょうだいの長男として生まれた。幼少時は近所の同年代の友達と野原を駆け回った。小学校は南小へ通ったが、入学式の四月一日に雪が降り父親に連れて行ってもらったこと、また卒業旅行で伊勢に行った時、道路事情が良くない時代にバスに揺られたため、多くの生徒が乗り物酔いになったことが今でも鮮明に思い出される。高等科を卒業した昭和十

六年に、少年工に志願して豊川工廠へ行き、葉きよの製造に携わった。同所には学徒動員生が大勢いて、苦業を共にした。そこでの四年間で周辺は空襲を何回も受けたが、無事でいられたのは本当に幸運であった。終戦に伴い帰郷し、親の勧めで市田木材へ入社し十年間勤めた。そこでは社長の指示で自動車の運転免許を取ったが、それが以後の人生に大きく寄与することになった。その後、地方事務所の土地改良課に所属した。運転免許を活かし飯伊地区を隈

無く駆け巡り、土地改良のための測量業務を支援した。中でも三六災害の時は、自宅も被災したにも拘わらず何日間も家に帰れず奥さんは復旧対応に苦勞した。三十二年間勤め一旦退職し、嘱託として更に三年間勤めた。

退職後は夫婦でお米、柿野菜作り等に勤しんでいる。幸い二人とも健康で、村の禁煙会に所属し何回も海外旅行に出かけた。またゲートボールも二人で興じ飯伊地区の予選を勝ち抜き県大会に参加したのも幾度となくある。更に審判の資格も取得し球技の向上に磨きをかけている。現在は自家用の野菜作りに集中し、長男一家との六人家族で平穩に暮らしている。奥さんの「今は本当に幸せ」との言葉が非常に印象的であった。

文責 桐崎 長一 宮下 正弘

鉄道全国旅歩き

第6回 北の大地 その四

北市場三 山本義彦



月寒の興奮が覚めやらぬまま札幌駅に着くも、二十時過ぎの函館行きの夜行列車待つ間どう時間をつぶしたか記憶が定かでない。

「東海の小島のいその白砂にわれなきぬれて、かにとたわむる」立待岬に立つ啄木の歌碑だ。函館駅に列車が入ったのは六時頃だったと思うが、すっかり寝込んでいて車掌に起こされたような気がする。

のみで、その中で特に印象に残っているのが函館山から港を見下ろす夜景だった。道内を十四日かけて本線と名の付く路線はほぼ走破したが、ローカル線までは乗ることが出来なかった。少し心残りではあるがやがてこの地を離れる時が来た。連絡船羊蹄丸の夜行便が五色のテープと蛍の光の曲に送られて岸壁を離れたのが午後の九時ごろ。夜のせいも

あり、離れ難い感情が入り混じり、青森を出港した時とは違って、何時までも遠ざかる港の灯を見つめるのであった。やがて湾外に出ると、遠く近くイカ釣り船の漁火が余計に感傷を煽った。すると、漁夫の顔まで見える近くを漁船がすれ違いこちらに手を振っている。思わず自分も手を振っていた。この時もう二度と来ることは出来ないであろうと思った。

湯が前後左右にゆれている。以後客船によるクルーズは無いので生涯最初で最後かも。青森、函館間は所要時間が四時間前後なので、夜行便は時間調整のため湾内で停泊する事を後に知った。青森港に六時頃着岸したが、入浴後すっかり眠っていたので函館から九時間かかったことに気が付かなかった。

でもいいフリー切符だったので貧乏青年が行くことが出来たと思っている。帰りは日本海側、つまり羽越本線、信越本線、辰野経由で帰省。十八日間で東北と北海道の鉄道の骨格たる本線を走破し残る内陸部はその後になる。昭和三十四年夏、二十三歳。



度蒸せる量は限られます。調理する物や量によって二つの甑を使い分けていたことが想像されます。実はこの時代、竪穴住居の様相ががらりと変わりました。それまでは家の中央に炉が作られていましたが、この頃から炉に代わってカマドが壁際に作られるようになり、煙道で煙を家の外に出す工夫もみられるようになり

さして、地蔵道の際に蒸す遺跡では何を蒸していたのか？米、芋、魚……。いずれにしても、甑の存在は、この地方でも調理方法として蒸して食べる「ことが盛んに行われていたことを示す大切な証拠です。」

「男の料理教室」は昨年十二月に開催百回を迎え、記念の食事会を行った。村長さん始め、当初お世話になった村の栄養士、食改の方々、交流している喬木村の「男の料理教室」の方々を招き、盛大に開催することができた。当日の料理はチキンのトマト煮、ブリの甘露煮、ネギの豚肉巻き、ほうれん草のおしたし、カミカミサラダ、赤飯など十数品を手際よく調理した。よく続いている、チームワークが良い、たいしたものだ」とお誉めの言葉をいただいた。招待客と一緒に楽しいひとときを過ごすことができた。

こちら資料館 古墳時代の蒸し器

少し間があいてしまいましたが、地蔵道三島遺跡の出土品の紹介を続けます。写真はいづれも甑と呼ぶ

れる蒸し器です。二つとも古墳時代中期(約千五百年前)の竪穴住居跡から発掘されました。食べ物を蒸すのに使われた道具です。

写真右の角のような把手付きの土器は底が抜けています。中に甑の子をはめて米などを入れ、蓋をして水を入れた甑の上に重ねて火にかけ蒸しました。左の漏斗状の土器も同じように使われましたが、容量が少なめで一

度蒸せる量は限られます。調理する物や量によって二つの甑を使い分けていたことが想像されます。実はこの時代、竪穴住居の様相ががらりと変わりました。それまでは家の中央に炉が作られていましたが、この頃から炉に代わってカマドが壁際に作られるようになり、煙道で煙を家の外に出す工夫もみられるようになり



公民館登録グループ活動紹介 第5回

料理を楽しむ「男の料理教室」

代表 壬生力

平成二十年に始まった「男の料理教室」は昨年十二月に開催百回を迎え、記念の食事会を行った。村長さん始め、当初お世話になった村の栄養士、食改の方々、交流している喬木村の「男の料理教室」の方々を招き、盛大に開催することができた。当日の料理はチキンのトマト煮、ブリの甘露煮、ネギの豚肉巻き、ほうれん草のおしたし、カミカミサラダ、赤飯など十数品を手際よく調理した。よく続いている、チームワークが良い、たいしたものだ」とお誉めの言葉をいただいた。招待客と一緒に楽しいひとときを過ごすことができた。

現在はメンバーは、入れ替わりはあったものの、五十〜七十代の十六人。月一回のペースで休むことなく続いている。包丁を初めて持つ者、台所に立つことがほとんど無い者、プロ級の腕を持つ者と様々。当初の数年は村の栄養士に栄養バランスや減塩のレクチャーを受け、当日のレシピも考案してもらい、食改の方々の協力を受け調理に臨んでいた。四年程前からは、当番制で自分達でメニューを検討し、食材を購入し進めている。メニューを考える時は主菜、副菜、副々菜と常に三、四品を季節感も考えながら決めて調理している。昨今の核家族化、高齢化社会では、昔のように「男

子厨房に入らず」などと、言っていないかもしれないかも知れず、男性も気軽に台所に立つことが求められることだろう。ともかく、今メンバーは料理教室を楽しんでいる。レシピさえあれば、食改の方々に見守られて、手際よく調理し、一杯やりながら出来具合を評価し、和気あいあいと様々な



何を料理しているのかな

話題で交流している。これが健康長寿に繋がっていくのではないかと思っている。(記 片桐)

とよおか 100年 第16回

「豊丘村民話集」より

狐にばかされた話

北沢丑衛

(その一)

昭和七、八年ころかと思いますが、佐原三の小池嘉一さんが、秋蚕の繭を農協に持って行きました。そのころ、林里で佐々木善さんという方が叶屋という一杯茶屋をしておりました。この店は若い奥さんが経営していて、気前がよいのでいつも満員盛況。嘉一さんも秋蚕は取れたし、お金もあるし、一杯が二杯になり、そのうちに友達ができ、ぐでぐでんでんに酔ってしまいました。

それから田村を通り、山田のよどが坂の山の神に来たことは覚えていましたが、その後をどうして歩いたか、かいくれ(まったく)覚えていない。秋の夜長も白々と明け、空腹と寒さと疲労で気が付いた時には林原大野のはん場の険しいなぎの上に座っていたといひます。嘉一さんの新調の股引がずたずたになり、わらじもおんぼろさんぼろになっていたそうです。

昔の市田村大島山に青山新一という大工さんがおりました。昭和二七、八年ころ、坂島の三島好白という人が納屋を建てるときにこの大工さんを頼みました。今は長沢から大満沢、越田の芝原を通り坂島に通ずる自

動車道が開通しておりますが、その昔は馬が通るだけ。越田の芝原から田村までは自転車が通りました。大工さんは家に用事があり、夕方、しごとを早めに終わり、自転車を押して越田の芝原まで来ました。まだ夕日が恵那山に沈む三十分ほど前で、これなら明るいうちに田村に行けると思いちよつと一服しました。それからが大問題。次に気づいたときは秋の夜長が明けて、大工さんは稲架の下に座っておりました。自転車は松林の中を引きずり回したのかハンドルは折れ、リムは曲がり、乗れるようなものではありませんでした。やむなく坂島に帰り、かようしかじかと話を話し、半日静養したというお話。(豊丘村民話集・第巻輯(昭和五十二年)より) 文責 壬生雅穂

~シリーズ~ 豊丘の自然

No.161

キジムシロ
(バラ科)



「すっかり春めいてまいりました。」と、最近とどいた手紙にあった。春をどこで感じたのでしょうか。私は……

○成虫越冬のオツネントンボとキタキチョウを採集して、

○寄り添うように二羽ずつで電線にまとまるムクドリ姿から。

○ホトケノザ、ヒメ

オドリコソウ、ナズナ、イヌナズナ、タネツケバナ、ノボロギク、ハコベ、セイヨウタンポポ、スズメノカタビラ、キジムシロ、オオイスズグリの色とりどりの花で。

そんな中で、山野に普通に生えている多年草のキジムシロを写真で紹介した。みなさんは、何で春を感じていますか。ふきのとうのテンブラかな。

(山田 栞)

第2分館

ボウリング大会

分館長 片桐 林三



二月五日(日)第二分館では、飯田市のアストロポウルにおいて、冬季レクリエーションとして、「ボウリング大会」を開催しました。

当日は、朝から雪の降る生憎の天気となり、会場への道路は大変な渋滞をしており、皆さん苦労をして会場へ来ていただきました。小さな子供さんからお年寄りまで四十一名の方に参加いただき、十二レーンを使用して、開催しました。

いろいろな方に、それぞれ楽しくプレイをしていただけのことです。同じ田村区に暮らしながら普段はあまりお付き合いのなかった方々もおられ、有意義な交流の機会であったと思います。

寒さも吹き飛ばす 冬季レクリエーション

第1分館

ソフトバレーボール大会

体育部 小澤 孝光



去る二月五日(日)に、北小学校体育館で第一分館主催の室内レク(ソフトバレーボール大会)を開催しました。

当日は、河野区の全十二自治会から申し込みがあり、総勢一八チームによる試合が行われました。

各チームは、抽選により三ブロックにわかれ、二試合による勝敗でブロック優勝を決めます。

繰り広げられ、あるブロックでは得失点差による優勝もありました。

参加者は、老若男女、多くの方が参加され、中には夫婦、親子で参加するチームもありました。

また、新しい住宅団地の皆さんにも多く参加していただき、自治会内は勿論のこと、自治会を越えて親睦を深めることができました。降り積もる雪に気づかないほど体育館は熱気に溢れていました。

オーケストラと友に音楽祭2017

豊丘村に名古屋フィルハーモニーがやってきた！

地域の皆さんと共々、みんなが音楽祭のコンサートです。

コミュニティコンサートinとよおか

名古屋フィルハーモニー交響楽団メンバーによる木管三重奏

日時:5月5日(祝) 19時開演 (18時30分開場)

会場:交流学習センターゆめあて

チケット:小学生以上 500円

4月21日から、ゆめあてで先行販売

出演: 木管三重奏 (トランペット、トロンボーン、クラリネット、ファゴット、ホルン、サックス、テナーサクソフォーン、バサニア)

指揮: 豊丘村教育委員会 豊丘村音楽委員会 豊丘村音楽行委員会

お問い合わせ: 豊丘村交流学習センターゆめあて (055-9066)

平成二十八年

親守詩とは、子どもが「五七五」、親が「七七」で「感謝」と「親心」を表現する親子のキャッチボール短歌のことです。

親守詩とは、子どもが「五七五」、親が「七七」で「感謝」と「親心」を表現する親子のキャッチボール短歌のことです。

▼全国若手市議会議員の会第十九代会長 新井信一郎賞 豊丘南小学校六年 池野 琴葉

(子) 常伸びる 私の成長 見守って (親) 心身ともに 追いつけ追い越せ

▼近藤精機賞 豊丘南小学校六年 小野寺研斗

(子) 親たちは おこるとこわい ひとだけど (親) つかはわかる おこられるわけ

▼ドコモショップ飯田アップロード店賞 豊丘南小学校六年 西垣 伊織

(子) 働いて 家事もして かがやかしい (親) 君の未来を かがやかせるため

▼ドコモショップ飯田インター店賞 豊丘南小学校六年 山本 仁晴

(子) ぼくの家 みんなそろえば にぎやか (親) いつもと同じ それが幸せ

伴句 短歌

如月やホテルロビーの花道展
冬薔薇茶筌に残るうすみどり
母の居ぬ座敷はことに冴返る
寒い朝足ひきずりつ厨事
日向ぼこ指すが空気の冷たさよ
急患のへり病窓に雪仙丈
寒月や手水にかよう杖の音
雪女かも知れぬ音だけ入り来
雪明り大合唱して春を待つ
ニューイヤークンサート久びさヒール履く
青ペンの亡師を偲ぶ寒日和
大寒の病母の骨は軋しみをり
眠りつく背の子も御判頂きぬ

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

授稿 俳句

ひだまりに 雪も解けゆく 春来たや

中部三 鎌倉 美登里

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「美」 福沢勝美 選

美しい言葉の裏に刺かくす 西元 峯子
期限切れ加えて調理美食化す 小澤 凛
人よりもベッ ト美食で医者通い 桃沢 健介
お買い物エプロン姿のママ美人 市沢 照子

軸吟: 食べ物の無き頃忘れ今美食

▼課題「小」 互選

高山へ登り小さい己知る 林 桃子
小魚をたっぷりのせて食う至福 久保ひろし
荒れた手で小さな幸を温める 原 美風

▼自由吟 桃沢健介 選

剪定で実りの夢が弾む音 安田 喜子
多数党少数意見踏みにじり 福沢 勝美
軸吟: 孤立する大統領にしがみつく

〈短歌会 夢あるて〉

積雪の上に出たるネコジャラシ下に小さき鳥の足あと 福澤貴美恵
里芋とわらびときのこのみそ汁が二月の朝餉はるあき運ぶ 大原真由美
孫二人「バイバイ」と手を振りて春の陽のなか園児となりぬ 筒井 恵子
昼休み工場団地のかたすみみに刻を告げるか雄鶏の鳴く 松尾ヒサコ
菩提寺の環境まもる任をうけ先人の道つしみて踏む 松下 泰見
九段坂の歌会にいでし日のことを裡にひそめて友を葬る 富永 博道

〈あしたば短歌会〉

只管に弛まず倦かず信じて来て既に欲なく米寿を迎 大倉 知江
八十路過ぎ不惑はなおも遠ざかり歳は忘れて歌を詠みつぐ 毛涯百合子
新築に娘夫婦より贈られしエアコンつけければ心温まる 久保田 妙
ガラス越し温き陽を受け縁側に椅子を持ち来て手足の体操 壬生 千春
木木被う雪の他には何もなまきに秘境としばし眺める 北澤 秀子
風の信濃をあとに天城越え河津桜に老いの背のばす 福澤 亀人